

令和 5 年 2 月 5 日

守谷市議会議長 殿

報告者： 首藤 太亮 印

守谷市議会議員視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施 ・ 参加 したので報告します。

視察・研修日	令和5年1月25日（水）	
視察・研修場所	宮城県東松島市 震災復興伝承館	
視察・研修項目	震災復興の取組について	
参加者	守谷市側	小菅 勝彦、海老原 博幸、首藤 太亮、田中 啓一、山本 広行、渡辺 大士、砂川 誠、堤 茂信、高梨 隆、渡辺 秀一、長谷川 信市、山田 美枝子、寺田 文彦、高梨 恭子、高橋 典久、伯耆田 富夫、梅木 伸治 事務局：局長 川村和彦、局長補佐 高橋哲也、主事 柳田侑希
	相手側	議長：小野幸男、復興政策課：大久保政信課長ほか1名 議事総務課長：渡邊晃ほか1名、東松島市震災復興伝承館職員：1名
視察・研修目的	東松島市の災害復興の取り組みと震災復興伝承館の視察	
視察・研修内容	震災復興の取組について インフラ整備や住宅地などハード事業は終わったが被災者たちの心のケアが現状の課題となるため復興はまだ終わっていないと考えている、 又震災の歴史を後世に伝えるため施設を設立し、現在国のSDGsなどのモデル都市となっている。今後は新たなステージの街づくりを目指している。 ① 現在における復興状況について 東松島市は東京から約330キロ離れた観光地として栄え、牡蠣や海苔など養殖も有名	

もともと約4万4千人いたが、現状は震災後の移住や高齢化などで約4万人へと減少してしまった。震災当時、多くの死因は津波にて命を落とす方が多数であった。又当時雪が降っており低体温症にて亡くなる方も多い。

太平洋からきた津波被害面積としては65%が被害を受け家屋の被害も半数以上が半壊した。

最上位計画として復興街づくり計画ベルドバック復興と合わせ高齢化や環境問題等も同時進行で進めていくことを進めてきた。そのため環境未来都市として環境省より選ばれる結果となった。

計画は発災から9ヶ月後に発足充填計画の中に防災に強い街など3項目をあげている

防災集団移転発足事業は市民の意見を取り入れ、7箇所の内陸部への集団移転を行なった。

国の復興交付金を使い土地を買取しその資金で市民が新しい家に移転した。

現状仮設住宅は現在全て解体 震災からおよそ八年間で完了、完成した頃に皆他のところで探していて空地も増える結果となった。

② これまでの復興の取組みについて

地域活性化＝新たな街づくりを掲げている。

市独自で復興予算の使い道を考えるのではなく、各自治体が主導的に動くよう予算を自治体に渡し街づくりをしている。そうすることで災害を受けたが多くの役割を果たした地域の絆が強く自助、共助、公助が重要になると考えている。

震災時瓦礫の処理量として109万トン以上の瓦礫がでた一般廃棄物の100年分以上の量となる。

瓦礫は14項目に分け最終的には19品目まで分けたその際被災者を雇い雇用の創設と99%のリサイクルを達成し、この事例が被災時のゴミ処理の全国のモデルケースとなった。

防災備蓄倉は震災時庫外部から3日程度は物資が届かないケースが多いため大きい備蓄倉庫を設立、その他各地域にも小型の倉庫を設置。

災害時の電力に関しマイクログリッドを形成、通常太陽光不

足分は大手の電気からもらうがマイクログリッドを形成することにより3日間は電力確保に成功。

やはり事前の備えが大事、災害は想定を超えるためそれに備えることが大事である。

③ 議会における災害の備えについて

議会BCPを作成、又災害発生時の意思決定機関と各議員や議長の役割を示すことが大事であり、いち早く市の要望などを一元化し議長が伝える。このように行動基準チェック表などを作り行動がわかりやすいようにした。

④ 東松島市震災復興伝承館について

2016年オープン2022年にリニューアル、震災前は電車が走っていたが路線が移動したため改修工事を行った。

後世に震災の歴史を残すために震災線償還を設立。市内各地の震災の様子を公開している。

質疑応答：

海老原議員

(質疑)災害廃棄物のリサイクルについて東松島市がこの方法ができた背景は？

(回答)合併前に災害があり大量の瓦礫が出て費用がかかった経緯があり、

当時の失敗を踏まえ震災前に関係機関と今後の処理費用の交渉や計画などを事前に設立していた。そのため環境省の方からもモデルケースとして震災時に全国で採用されるようになった。

山田議員

(質疑)大きな災害後精神的なケアやサポート続けているのか？

(回答)ハード面に関してはおおむね復興は完了しているがやはり心のケアは今後とも必須となります。

震災後学校に行きたくないなど不登校児童が増えるケースが多々あり、子供のケアや家族のケアが難しく時間が掛かる

	<p>と考えています。 民間団体を活用しミュージカルなど被災関係者が一緒に参加し現在もソフト面での復興をしている。</p>
<p>視察・研修総括 (今後の取組み 等)</p>	<p>実際に震災の被害にあった当事者の方から貴重な体験談や復興方針など改めて貴重な研修であった、守谷市では震災時にどのように行動するのか？事前の復興プランや用意など議会として事前に備えることの重要性を改めて痛感致しました。今後より災害対策を起こりうるものとし議論を進めていく必要性が有る。</p>